

臨海副都心とベイエリア

環境と共生するみなとづくりを目指し、様々な取組が行われている東京のベイエリア。
2016年東京オリンピック・パラリンピックの多くの競技会場も予定されています。



オレンジ色 オリンピック・パラリンピッククラスター予定地 (クラスター：近接する複数の競技会場エリア)

緑色 海上公園

緑あふれる東京の再生に貢献する 「海の森」と「風の道」



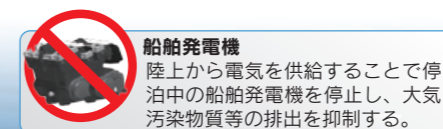
東京都は、水と緑の回廊で包まれた、美しいまち東京を復活させることを、10年後の東京の姿として目標に掲げています。中でも、東京の空と海の玄関口につくられる「海の森」は、海から都心に吹きぬける「風の道」の起点として位置づけられています。ごみと建設発生土でつくられた埋立地を、植樹活動により約88ヘクタール（東京ドームの約19個分）の広大な森に生まれ変わらせる事業で、今後、緑あふれる東京のシンボルになっていくものです。

「海の森」に植樹する苗木を購入するため、都民・企業の皆様に「緑の東京募金」へのご協力をお願いしています。

「海の森」ウェブサイト <http://www.uminomori.metro.tokyo.jp>

環境に配慮したみなとづくりの一例

※陸上電力供給



船舶発電機
陸上から電気を供給することで停泊中の船舶発電機を停止し、大気汚染物質等の排出を抑制する。

停泊中の船舶から排出される大気汚染物質(SOx、NOx等)やCO₂を抑制するため、接岸中の船舶が必要とする電力を、陸上施設からの供給に切り替えること(船舶版アイドリングストップ)を推進することにより、港湾地域における大気環境の改善を図ります。

